



# 交通事故から 子どもを守ろう

## 春の交通安全運動（4月6日～15日）

**市民みんなで考えよう**

交通事故は、もはや人ごとではなくなりました。私たち一人一人が自分自身の問題として真剣に考えなければなりません。

交通安全全市民会議ではこの問題を四十万市民がいっしょに考え、知恵を出し合って交通事故のない明るい町づくりを進めていくため、初めての試みとしてつとこころ中央公民館

ぎのとおり「交通安全」とはなくなりました。私一人一人が自分自身の問題として真剣に考えなければなりません。

交通安全全市民会議ではこの問題を四十万市民がいっしょに考え、知恵を出し合って交通事故のない明るい町づくりを進めていくため、初めての試みとしてつとこころ中央公民館

も議会」と、「交通安全市民大会」を開きます。

たもの、そして自転車に乗車中のものの順になっていきます。また、事故にあつた日では土曜日が最も多く、時間的には午後三時から七時までの間が断然多くなっています。

### 家庭でもしつけを

初めて家の外へ出ることもたちにとって、通園通学路は、まだまだ危険がいっぱいです。しかし、ことの交通事故の原因は単純な

ものが多くの、交通のきまりをちゃんと教えこむだけでも効果があるのです。

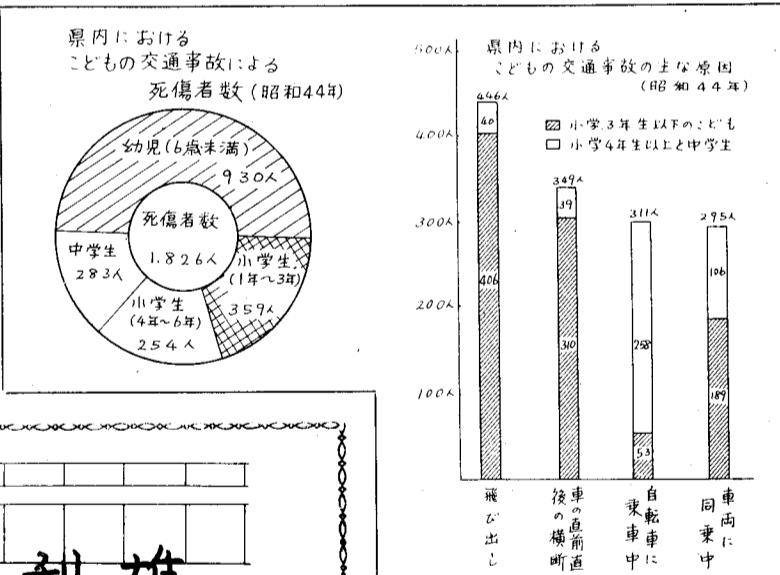
家庭でも交通のきまり、正しく教え、「きまりを守り、安全を確認してから行動する」ようにしつけます。同時に、車を運転する人も十分注意して、無理に合わすことのないようになります。

市長隨想 (29)

教育ということの内容について素人がかれこれいう資格はないのですが、教育というもののおよぼしてある影響が、人間の体や心や知識に如何に大きな結果をもたらすかが、このこどもたちの態度にうかがえるのです。幼稚教育のことが、ずっと論議されているようですが、先般、中央教育審議会は、五歳児教育は制度としては時期尚早ということに決めたようです。その是非はともかく、教育といふものは幅が広く奥が深く、しかも時代の流れとともにその在り方も変わるものでしようが、戦後の六・三制教育の結果といふものが、昔の教育の結果にくらべて、ほんとうに変わったと思わない人はないのでしょうか。

## 市政五本の柱

- ◎ 市民生活の環境整備
  - ◎ こどもとお年寄りを大切にすること
  - ◎ 市民性を高める教育文化の拡充
  - ◎ 市民生活を豊かにする産業の振興
  - ◎ 南九州の中心都市としての機能整備



「暑さ寒さも彼岸まで」といわれるおり、例年なら三月の下旬にもなつて桜島が薄化粧をするほどの寒さはないのですが、今年の春の足音は、なかなか近づいてこないようです。

**市民のひろば**

**MBCテレビ**

毎週日曜日 午前9時45分から  
(再放送…毎週木曜日  
午後4時から)

■ 4月から放送時間が変わり、再放送も行なうことになりました。

**4月12日放送**  
「新年度予算と主な事業」

**4月19日放送**  
「春の交通安全運動をふりかえって」

**4月26日放送**  
「4月の市政ハイライト」

**5月3日放送**  
「市長と15分」



